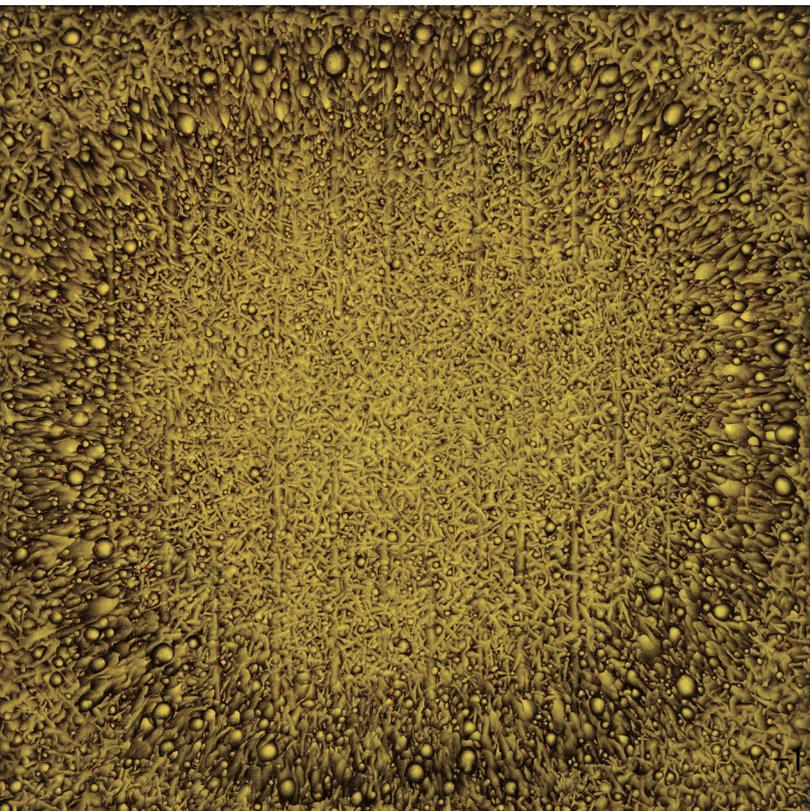


東広島市立美術館 所蔵作品展

美術の キーワード 入門編： 具象と抽象

2019

4.27 [sat] — 6.9 [sun]



[会 場] 東広島市立美術館 2階展示室

[開館時間] 10:00-17:00(入館は16:30まで)

[休 館 日] 月曜日(ただし5月6日[月]は開館、5月7日[火]休館)

[入 館 料] 一般100(70)円、大学生70(50)円*、高校生以下無料* (*学生証をご提示ください。/()内は20名以上の団体料金)

[主 催] 東広島市立美術館

上:小早川篤四郎《U婦人像》1942年/下:入野忠芳《風成95-1》1995年

東広島市立美術館

HIGASHIHIROSHIMA CITY MUSEUM OF ART

〒739-0144 東広島市八本松南2-1-3

TEL 082-428-5713 FAX 082-427-3058

<http://www.city.higashihiroshima.lg.jp/bijutsukan/>



遠藤彰子《沈める街》1989年



桜田知文《夕風の景》2002年

東広島市立美術館ではこのたび、当館所蔵の絵画作品と立体作品を「具象」「抽象」という二つの“美術のキーワード”からひもといたコレクション展を開催します。



山口長男《漂》1979年

広島県ゆかりの画家・小早川篤四郎が柔らかなタッチで婦人像を描いたように、人物や風景などのモチーフを現実にとった色やかたちで表したものを「具象」といいます。それに対し、限られた色彩によって独自の表現を追求した山口長男の作品が示すとおり、作家が対象から本質を取り出し自由に表現したもの、または、対象を持たず純粋に色やかたちで構成されたものを「抽象」といいます。さらに、金属素材で風景を制作する桜田知文《夕風の景》のような、どちらにも判別しがたい中間的な表現も存在します。

本展では美術鑑賞の入門編として、「〈具象〉って?」「〈抽象〉って?」「具象と抽象のはざまで」の三章立てでその表現の多様性と魅力に迫ります。

美術により親しむためのキーワードが作品の豊かさや鑑賞の楽しさを感じるきっかけとなれば幸いです。あなたもこの春、美術館デビューしてみませんか?

【関連イベント】 ※いずれも申し込み不要/要入館券

学芸員によるギャラリートーク

[第1回] 具象と抽象:入門編

担当学芸員が参加者と作品を鑑賞しながら、本展の見どころや作品の魅力について紹介します。

どなたでもお気軽にご参加ください。

日時:4月27日[土] 14:00-14:30

会場:2階展示室

[第2回] 美術のナゾ解き:子ども鑑賞編

館長と学芸員による子ども向けギャラリートーク。

作品の前で一緒にお話ししながら鑑賞します。

日時:5月12日[日] 14:00-14:30

会場:2階展示室

対象:小学生(保護者同伴/一般見学可)



交通アクセス

JRをご利用の場合:山陽本線「八本松」駅下車 徒歩約10分/

山陽新幹線「東広島」駅下車 タクシー約15分

お車をご利用の場合:山陽自動車道 志和ICから約10分/

国道486号 八本松駅前交差点を南へ800m

東広島市立美術館

HIGASHIHIROSHIMA CITY MUSEUM OF ART

〒739-0144 東広島市八本松南2-1-3

TEL 082-428-5713 FAX 082-427-3058

http://www.city.higashihiroshima.lg.jp/bijutsukan/